



モードの最先端と、 技の至宝

— 呉服の高島屋が誇る二つの顔 —

高島屋コレクション きもの・装いの美
百選会・上品會の歴史
2013.10.12[土] — 12.23[月・祝]

高

島屋といえば、老舗高級百貨店。天保2(1831)年京都烏丸に創業以来180余年、高島屋は呉服を商いの中心に据えてきました。本展覧会では、明治・大正・昭和と、女性のファッションの中心が着物

であった時代、高島屋の屋台骨となった二つの新作発表会を紹介し
ます。

明治39(1892)年、高島屋は呉服全般の新案を懸賞公募、入選作を第1回流行品陳列会「ア・ラ・モード」
として発表しました。そして大正2(1913)年3月、「第1回新柄流行品 百選会」が開催されました。全国の染織業者から新作呉服を公募する百選会は、当初は募集要項に「新機軸品歓迎」とあるのみでしたが、やがてデザインのテーマ(趣意)と色(選定色)を高島屋

が設定するようになりました。またデザインのヒントとなる具体的な絵がほしいという要望に応じて、高島屋の図案部社員による「標準図案」が用意されるようになりました。この標準図案を作るのが大変な作業だったようで、社会の動向や世界情勢などをもとに考えられた趣意をどのように図案に描くか、古今東西の美術品や音楽、文学などを参考にして作られた図案からは、流行を自ら生み出そうという気概が感じられます。

趣意書(趣意と選定色を印刷した資料)と標準図案をもとに、応募作は数千点におよび、審査のうえ約100点に絞られました。入選作に名前を付ける仕事には、歌人の与謝野晶子や詩人の竹中郁といった知識人たちが関わりました。入選作は東京、大阪、京都、横浜などで発表され、ほとんどが売り切れるほどの人気であったといえます。百選会は戦時中を除いて、平成6年まで開催されました。



▲ 訪問着《夜間飛行》昭和34(1959)年 第93回秋の百選会 (テーマ: 飛躍・交流・総合 日本近代美の創造) [前期展示]
▼ 着尺《アカンサス》昭和28(1953)年 第80回秋の百選会 (テーマ: 新生花調) [後期展示]

じようばんかい
上品會

もうひとつの柱は、同じく高島屋が開催してきた「上品會」です。これは昭和11(1936)年、染(友禅)の千總、織の矢代仁、帯の龍村の三家を同人として創設された、日本の染織五芸である織・染・繡・絞・紵の技を競う呉服の新作発表会で、現在は同人八社にて開催されています。第1回「染織名家上品會」の図録(写影帖)の巻頭には、初代龍村平藏による上品會由来が記されています。「品」とは、古くは親王の階級や、仏教用語では成仏の階級を意味し、その最上に位置するのが「上品」です。流行に左右されず、染織の最高峰を目指した結果を、「至藝至精、真に美

術工芸界の最高展観として恥じざる」展示会として発表するというものでした。

上品會の最大の特徴は、ここに取り上げられる呉服は全て高島屋が買い取って販売するという点です。出品作はどれも最高の技に支えられ、伝統的な意匠を踏まえつつ時代の空気を取り入れた新しい呉服として作り上げられたもので、日本の染織の文字通り「上品」の世界が広がります。

「呉服」という言葉が人々の生活の中心にあった時代の香りを、美しくも斬新なきものの中に見つけてほしいと思います。

(学芸グループ長 坪井則子)

前期展示: 10.12[土] — 11.20[水] 後期展示: 11.22[金] — 12.23[月・祝]

掲載作品はすべて高島屋史料館蔵

ミュージアムショップ

きものと楽しむ和の品をどうぞ

伝承の技と美をお手元に
龍村美術織物

バックハンガー
1,575円(税込)

ミニ巾着
3,675円(税込)

懐紙入れ
6,300円(税込)

小帛紗
3,150円(税込)

両面ミラー
2,940円(税込)

堀口切子
江戸切子籠目文切立盃
(黄・赤・青・緑)
各15,750円(税込)



利便性抜群の風呂敷、取り揃えています
宮井株式会社 木綿ふろしき



芹沢銈介
各525円(税込)



kotohime
各630円(税込)

プレゼントコーナー

※抽選で2名様に「プ」マークの品を差し上げます。
「プレゼントコーナー応募」、ご住所、お名前、電話番号、隆泉の感想と隆泉に掲載したい一言コメントを明記の上、佐野美術館「隆泉」係まで郵便かFaxでお送りください。一言コメントのテーマは「思い出の人形」です。
しめきり: 2013年11月15日(消印有効)
・当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。
・いただいた個人情報はプレゼントの発送以外に使用いたしません。

※龍村美術織物は「きもの・装いの美」展会期中(10/12 ~ 12/23)のみの販売です